

市民がつくる  
市民が学ぶ  
市民が拓く  
生涯学習情報誌

# Stage

月刊ステージ・アップ

---

# up

'99  
**3**

月号【1日発行】

■ 学歴社会から実力社会へ  
資格支援講座の受講者募集



いまを話す

フリースペース「たまりば」代表  
西野 博之 さん  
ほっとしたいよ 心スタスタの  
不登校小中学生  
私を引きずり回さないで!

■ほんねインタビュー いまを話す  
 フリースペース「たまりば」代表

西野 博之さん  
 ほつとしたいよ 心ズタズタの不登校小中生  
 私を引きずり回さないで!

■はりきってます グループ紹介  
 生き方見直し「楽集」する

ま・いい会(高津区)  
 男声合唱で「生涯青春」する  
 高津メンネルコール

●学習・文化情報  
 □会員募集/ミニニュース/編集後記

◇表紙絵……春のニヶ領用水(多摩区の緑化センターで)  
 村楢広義さん

(小誌は再生紙を使用しています)

## 資格支援講座の受講者募集

●会場 市生涯学習振興事業団(小田急線新百合ヶ丘駅下車)

### 宅地建物取引主任者資格試験準備セミナー

- 日 時——4月24日～10月9日の毎週土曜  
9時半～12時半、全23回
- 受講料——35,000円
- 教材費——12,500円
- 定員——50人(抽選)
- 募集期間——3月9日(火)～11日(木)

### TOEIC(初級)

- 日 時——5月15日～10月2日の毎週土曜  
10時半～12時半、全15回
- 受講料——20,000円
- 教材費——8,000円
- 定員——25人(抽選)
- 募集期間——4月6日(火)～9日(金)

### 社会保険労務士答案練習講座

- 日 時——5月8日～7月10日の毎週土曜  
13時～16時半、全10回
- 受講料——20,000円
- 教材費——5,500円
- 定員——50人(抽選)
- 募集期間——3月23日(火)～26日(金)

### TOEIC(中級)

- 日 時——5月15日～10月2日の毎週土曜  
13時半～15時半、全15回
- 受講料——20,000円
- 教材費——8,000円
- 定員——25人(抽選)
- 募集期間——4月6日(火)～9日(金)

〈申し込み・問い合わせ〉10～16時に ☎(952)5000の当事業団

お勧め本

「子どものために」という前に 青木悦著  
 迷いの子育て体験にほっと  
 多摩区西生田、福島裕子さん

けやき出版、千四百円

二人の子供の母親となり、子育てに一喜一憂する日々、青木悦さんという人生の先輩に出会った。はじめや登校拒否が社会現象として取り上げられるずっと以前から、子の問題を追究し警告を発していたジャーナリストである。友人と始めた子育ての勉強会に講師として来ていただき、現代の若い母親のかかえる悩みや問題点に鋭い指摘をいただいた。その青木悦さんがご自身の子育てについてありのままに書かれた本を出されたということ、いち早く手に入れて読んでみた。

悦さんのご両親との確執、子育て中の夫婦のかかえる問題、そして子供とのかかわりという三つの点で、自身の状況と比べてつづつ学び共感できる部分が多々あったなにより悦さんご自身がこんなにもとまどい迷いながら子育てされてきたのだということに励まされる。最初の言葉が「エッチャン」だったという息子さんのたくましい成長ぶりが、ご夫婦の信頼で結ばれた子育ての確かさを何より物語っていると思う。

県立多摩高校合唱部  
 定期演奏会

3月25日(木)

午後6時15分開演

宮前文化センター

(田園都市線宮前平駅下車)

入場無料

指揮 岩本達明

曲目 混声合唱とピアノの  
 ための「はだか」他

<問い合わせ> 同校合唱部

☎(911)7107

資格取得支援講座

インテリアコーディネーター

受講者募集

- 日 時——4月21日～9月22日の毎週水曜13時半～16時半、全20回
- 会 場——市生涯学習振興事業団(小田急線新百合ヶ丘駅下車)
- 受講料——40,000円。他に教材費27,500円
- 定 員——35人(抽選)
- 申し込みは、3月9日(火)～11日(木)10～16時に ☎(952)5000 の当事業団

はじめての陶芸 受講者募集

- 日 時——5月15日～来年3月18日の毎月第1・3土曜14時から、全20回
- 会 場——市青少年創作センター(小田急線生田駅下車)
- 対 象——市内在住・在勤の20歳以上の初心者
- 受講料——30,000円
- 教材費——12,000円(粘土、釉薬、道具代)
- 定 員——30人(抽選)

<申し込み方法>

4月1日(木)～10日(土)(10日消印有効)に  
 はがきに講座名、郵便番号、住所、氏名、  
 電話番号を記し申し込む

<申し込み・問い合わせ先>

市生涯学習振興事業団学習事業室陶芸教室係  
 〒211-0064 中原区今井南町514の1  
 ☎(733)6626

## いまを話す

ゲスト

フリースペース「たまりば」代表

西野 博之 さん

Vol.72



聞き手 「たまりば」ってどういうところですか。

西野さん 僕は「フリースペース・たまりば」(高津区久地)と言っています。この十年間に、何らかの理由で学校に行かない、行けない子供たちが増えて社会問題になっていきますね。そういう子供たちは、学校・家庭・地域に自分の居場所が見つからないのです。それで「緊急避難の場」として一九九一年に「たまりば」をはじめました。

聞き手 フリースクールではな

ほっとしたいよ 心ズタズタの  
不登校小中生

私を引きずり回さないで!

間もなく、目を輝かせた一年生が入学する。心も体もピカピカなのは数年間で、期待が自己嫌悪に変わる児童も少なくない。不登校小中学生は全国で十万人超。その数は「自分の居場所がない子供」の氷山の一角との指摘も。高津区久地のフリースペース「たまりば」は、子供たちが「ほっとできる場」。代表の西野博之さんは「教育なるもの」に引きずり回されていた子供たちが「何もしいない時間を得て、とことん何をしたいか考え、その意思を表現できたとき、子供たちは生きることに出す」と話す。その西野さんは、今日も明け方から市場で働き自分の生活を支える。聞き手は、フリーアナの寺本由美子さん。「――」は小誌スタッフの補足質問。

く、フリースペースというのは。西野さん 「学校の外に学校はいらぬ」というこだわりからです。現在の日本の子供たちは、いろいろな「教育なるもの」に囲まれています。子供たちが何らかの理由で学校を離れても「教育してあげよう」と大人社会が待ち構えているんです。

――「大人の親切、子供に迷惑」の場合もあると。

西野さん 僕はフリースクールも否定はしません。子供自身が「やりたいかどうか」が学びの原点だと思えます。ですから、学校的でないものをつくりたかったんです。はじめのころは「学校に行かない子供に出会った大人の責任」と考え「学校以外にこんな学びの場がある。こういう体験ができる所もある」ことをたくさん知ってほしいと思いました。それで「明日は博物館。あさってはアスレチックで体を動かす。次の日は築地の市場で物流を見る」というように「子供たちが、社会体験をしたり、人と交わることで学び、自らが育つ場所」ということを強く意識した時期があったんです。

――諸外国の子供に比べ、日本



の子供は体験が少ないといわれています。いい試みだと思います。

西野さん それがある時、小学高学年の女の子が「毎日、出掛けるのでもいいけれど、本当はほっとできる場所がほしい」と言ったのがきっかけになって、多摩川のほとりに部屋を借りました。

——「タマ・リバー」ですね。

西野さん 部屋を借りて、彼女たちが最初にしたことは六畳間の押し入れの天井裏の掃除でした。来る日も来る日もバケツリレーで水を取り換え、ぞうきん掛けをしていたのです。数日して、のぞかせてもらったら、天井裏の梁のところに、ろうそくを灯し懐中電灯を照らし「ここが私たちの居場所よ」と。その時、僕はハンマーで頭をたたかれた感じがしました。この子たちのためになる体験をさせてあげようと寄り添っていたつ

もりが、子供たちが欲していたのは「ほっとできる居場所だった」と気づき大きなお世話だったと…。

聞き手 現在、「たまりば」には何人くらいの子供たちが通っているのですか。

西野さん 常時ということでは、二十人くらいです。小学生から二十代の初めまでが多いですね。

聞き手 「たまりば」ではどういうことをするんですか。

西野さん 「来たいときに来て、過ごしたいように過ごす」を原則にしています。「たまりば」にきて、友達とおしゃべりしている子、小説やまんがを読んでいる子、ギターの練習をしている子、絵を描いている子、ゲームやトランプをしている子、その隣で勉強している子、料理をしている子と本当にさまざまです。なにか行事をするときも、強制ではなく「この指とまれ」で参加を呼び掛けます。

聞き手 ルールはないんですか。

西野さん ありません。いろいろな年齢層の子供たちが集まってくるけれど、そこには「無秩序の中の秩序」というようなものがある、ちゃんとできます。与えられたルールは「破る」という発想が生ま

れやすい。「たまりば」は会員制ですが出席簿もありません。決まっていることは、部屋を開ける時間が午前十時半で、閉める時間が一応、午後六時と決めているくらいです。でも、決まった時間に終わることはほとんどありません。

聞き手 好きな時間に来て、好きなことを好きなだけしていいんですか。



西野さん ええ。まず「とことんやりたいことをしっかりと自分の中で見つける」ことが大切なんです。「自分はこれがしたいが、これはしたくない」ということを一人一人の子供自身がおきりきりさせることが大事なんです。

聞き手 いま、自分がしたいことを見つけられる子供ってほとんどいないように思います。中学生の場合、朝、学校に行って部活の練習してから授業を受け、放課後

## 西野 博之 さん

にしの・ひろゆき=1960年、東京浅草生まれ。学習塾、フリースクールのスタッフなどを経て、91年、多摩川(TAMA RIVER)のほとりにフリースペース「たまりば」を開設。95年、高津区久地に移転。早朝は「学校」という場を通過しなかった若者たちとともに、川崎市中央卸売市場北部市場で働く。川崎市子ども権利条例調査研究委員。著書に「THE中退」(朝日新聞社・共著)、ミニコミ誌「子どもとゆく」(子どもとゆく編集部)に連載中。高津区千年在住。

も部活動。くたくたになつて帰宅し、それからまた塾に行つて一日が終わつてしまふんですから。そういう中で、自分のしたいことを自覚できるはずですよ。

西野さん 子供たちに、自分のしたいことを考えさせない、じつくりとしたいことを見つめる余裕を与えない、という側面が今の教育にあります。

——たとえば…。

西野さん ある中学生が部活動をやめようとしたら、教師の間で引き継ぎがされ、空きのある部活が用意されていた、という笑話

## したいことと自ら発見が教育成果

「たまりば」の活動

昨年5月、帆船で東京湾を航海



のようで深刻な話を聞きました。つまり、「放課後、自宅や地域で好きなことをする」という自由が許されない。学校から逃げられないようになってきているんです。一人でほっとできる時間、自分でやりたいことを探す余裕を与えないで、次から次へと何かをこなすだけに

なっています。また、それには必ず何らかの評価が伴っているのが現状です。子供たちにとって、したいことを見つけることはすごく大変なことなんです。聞き手 「たまりば」に来る子供たちにとってもそれはむずかしいことですね。

西野さん ええ。不登校の子供たちの中には「私はだめだ」と思っている人もたくさんいます。学校に行けない自分を責め、傷ついている人たちもいます。

聞き手 そういう子供たちにとって、家庭が居場所にならないのですか。

西野さん 「そのままの自分ではないんだ」と思えない子供たちが、家庭にいてほっとできなければ、居場所にならないのです。しょっちゅう親から小言を言われたり、たたかれたり、無理やり車に乗せられ学校に連れていかれたりすると、トイレに鍵をかけて立てこもるしかないような状態になります。

——いまのお話は、ごく少数の子供の状況という感じもしますが。西野さん 親たちの多くは自分の子供に「普通」を求めます。けれど、普通という枠組みに子供も親も押し込められていないでしょうか。なにを豊か・幸せと考えるのでしょうか。「いま、なにを学びと考えるか」教育の中身が問われているのです。「学校に行っていないから普通で幸せ」という発想はまず疑って見た方がいい。学校に行きながらも心の中にしっかりと

コンプレックスをためこんでしまっている子供たちが増えています。

聞き手 「たまりば」を子供や父母はどうやって知るのですか。

西野さん 多くは口コミです。

他に新聞、雑誌、あるいは市販されているビデオを見て「たまりば」を知るケースです。最近では、児童相談所や学校からの紹介というケースが増えていきます。

聞き手 最初は、親子で来るのですか。

西野さん まず親が来て、話を聞いて雰囲気を見て、それから子供を連れてくる人が多いですね。

聞き手 会費は。

西野さん 以前は定額の会費を納めてもらっていましたが、いまは会員自身が月額いくらと任意に会費を設定する方法にしました。

年払いの会員もいます。「たまりば」は年齢、国籍を問わず、基本的にはだれでも来たい人が来て、集える場になっています。障害年金から払ってくれる人もいれば、「この年になって親から出してもらうのが気がひける」という若者もいます。また、外国籍の人も来ます。子供たちも「学校に行っていないのに」と親に遠慮していま

ほんねインタビュー

# 人生は自分自身の責任で

## 気休めのケアは無意味

す。こちらが設定した「会費を払えないから『たまりば』に行けない」というのでは意味がありませんから任意の会費にしました。

聞き手 親から「会費を払うのだから、学校に行けるようにして



ほしい」との要望はありませんか。  
西野さん 口には出しませんが実は結構多いですね。こちらの趣旨を理解して子供が「たまりば」にくることを承知して会費を払っているようでも、根っここのころに、そういう思いが見え隠れする。そのことを年々強く感じて「基本的には請け負わない」ことにしたのです。

聞き手 どういうことでしょうか。

西野さん フリースクールとかフリースペースが無かったころは、親子で葛藤し、いくつものハードルを越えてきたわけですね。いまは「学校に行かないのか。それならお金を出してやるから、フリースペースにでも行っておいで」と。つまり「不登校で親をわずらわせるな。お金を出して預けるから何とかしてくれ」という危うさと、発足当時の思いが継承されないのではと感じたこともあって、月謝というシステムをなくしました。そして「居場所をつくる」ということを再確認して、任意の会費をもらうことにしました。

聞き手 「たまりば」のスタッフは何人いるのですか。スタッフの生活費は…。

西野さん スタッフは僕の他に四人です。常勤のうち一人を除いて、仕事をもちながら「たまりば」とかかっています。僕は、川崎

市の中央卸売市場北部市場で働いています。「社会と接点をもって、自信をつけたい」という「たまりば」の若者たちと一緒に仕事をしています。彼らは給料が支払われるとき、自分の存在を確認できるんです。相手（雇い主）が、給料を支払う価値を自分に認めてくれたことで自信が持てるわけです。これって、すごく大事なことです。

聞き手 「たまりば」に通っていて、来なくなった子へのフォローはあるのですか。

西野さん 「たまりば」は何かのケアをする場所ではありませんので、その子が「いま、どうしているのだろう」と思うことはあっても、基本的には後追いはしません。その子供にとつて、「たまりば」が必要なくなったら離れます。それはどんな場面でも起こることです。学校でもそうですし、心理カウンセリングを受けている場合



寺本由美子さん

### 寺本由美子さん

1957年、岐阜市生まれ。80年、東海大学卒業。同年、退社。その後、1982年、その子の11歳で結婚。その後、1988年、現在、川崎区在住。

も同じです。「だれも他者の人生まで抱え込むことはできない」と思います。だれも他者の人生に責任を取れないのですから。発足時は「救ってあげたい」という発想から、緊急避難場所として始めました。けれど僕たちが、子供たちやその親たちと一緒につくってきたのは「自分にとって必要な場所」というスタイルなのです。僕らができる範囲のことで、誠実にかかわることが大切だと思います。——「してあげる」「してもらう」という、かかわりかたではないということですね。

西野さん そうです。ほっとできる場を探している人にとって、『たまりば』が必要な場所かどうか、僕らにとってはほんとも大事なことです。来なくなった子供のケア、後追いつけることは、

## たまりば 安心し自分の考え言葉に 自己否定から「自分を信頼」

「あの子にとってプラスになる」という、こちらの勝手な思い込みなんです。その子に電話をしたり訪ねて行ったりすることが、かえってその子にとっての痛みになる場合もあることを理解しなくてはいけないと思います。

**聞き手** そうですね。わが子に對しても「よかれ」と思っていていたことが、かえって苦しめることになっていたりしますから。

——本人から「こういうことがしたいんだけど」と相談されたときは、どう対応しますか。

**西野さん** その場合は、本人との話し合いのうえで決めます。たとえば、学校での学力、受験するために学力をつけたいという場合、それにも対応します。僕らで対応できないことは「こういう方法があります」とアドバイスします。

**聞き手** 「たまりば」に居場所をみつけ、何もしない時間を過ごしたり、あるいは一つのことの中にあったり、とそれぞれの思いで過ごす過程で、子供たちはどう変化していきますか。

**西野さん** たくさんの子供たちが「たまりば」を通過していく中で変わっていくのは「自分自身に對する信頼」ということが大きい



昨年3月、手づくり料理を囲んで「おたのしみ会」

と思います。「たまりば」の大事などところは「ほっとする。安心できる」ことです。そして「言いたいことが言い合える」ことです。このこと自体、いまの学校なり家庭の中でなかなか保障されていないと思うんです。顔色を見ながら、何かの評価を伴う関係の中で「怒られるのではないか」とか「否定されるのではないか」と考え、口をつぐむ、話すのをやめてしまう。



とにかく、自分の考えを口に出す、言葉にする。その出した言葉によって、その人の存在が否定されることのない関係を築くことが大きな目的のひとつです。

**聞き手** なるほど。

**西野さん** 同時に「ありのままの自分でいいんだ」という気持ちで自分自身を受け入れること。いま、子供たちの中で本当に不足しているのがこのことです。親や教

師からいつもだれかと比較され、否定的な言葉を聞かされ続けているんです。そういう中で「自分は何をやってもだめなんだ」という気持ちで育ってきた子供にたくさん出会います。自分自身を愛せないで、人を愛することはできないのです。いじめの問題も、自分自身を引き受けられない子が、加害者になるケースが多いのです。他者を排除したり、他者を執拗に責める子供は、その子が心の中に問題を抱えているからです。その抱えている問題を自分自身の中で認識できたとき、「いじめ」でうつぶん晴らしはしなくなりますよ。

——そうでしょうか。

**西野さん** 自分自身をそのまま受け入れることができるようになると、子供たちは見事なほど欲を出します。僕が今までに出会った子供たちの中で「なにか大丈夫みたい」といった子供たちは、どんな社会に踏み出せるんですね。

——ここまでお聞きしてきて、やっと自分の中の既成の価値観から抜け出せたような気がします。

**西野さん** これはどう考えたらいいのか迷うところですが、現象としては登校についての刺激をな

にもしないのに、結果的に学校に戻る児童生徒が増えていくんです。それも仕方なく行くのではなく、**「次のステップ」**として、そこを利用しようと。あるいは、学校には行かなくても、自分たちで職をみつければ、パートナーをみつけて子育てをしているとか、いろいろな形で社会に出ていっています。



**聞き手** 次のステップに踏み出

すときは、目の輝きが違ってくるでしょうね。

**西野さん** 自分に対する信頼を回復すると、次に自分を自己実現していきける場所を探して巣立って

いくんです。ですから「何もケアしない」といったときは、驚かれますが「あなたは、こういうところが駄目だから、こうしなさい」というような対応からは「本当の育ち」とか「自立」は生まれてこないですね。

——主観的には「指導している」「教えている」と思っていますが、結果的には子供の自立を阻害していることもあると。

**西野さん** 「これができない、あれができない」から始まるのではなく、「だめだ」と思っている自分を引き受ける作業を通して自信をつけて出ていく」という感じですね。自分に自信をつける作業はむずかしいことですが、これは他者とかかわりの中で確認していく作業になると思います。

——そのかわりを持つ場所が「たまりば」なんですね。  
**西野さん** ええ。でも「たまりば」が「勉強ができないより、で

## 「何もしない」に評価を

### 自信回復へのステップとして



きたほうがいい」との価値観の場であつたら、子供たちは解放されませんよ。「たまりば」は無秩序のように見えるかもしれませんが、でも、他人の尺度ではなく、その人にとって大事だと思うことを大事にするということを第一歩にしています。

——その第一歩に「ほっとしたい。なにもしない」があると。  
**西野さん** そうした中で、自分の価値を見いだし作り上げて社会に出ていきます。社会の中でぶつかり合って、また自分の価値を再構築していけばいいんです。

——昨年十一月、中教審が指導要領のスリム化を答申しました。プロイラーでニワトリを飼育するような教育では駄目だということでしょう。学校も家庭も「同年齢の子供たちが、同時期に、同じ内容を学ぶことが、教育の平等」と

思い込んでいた感じですが、大人たちがこれまでの価値観から抜け出すにはかなりの時間がかかりそうですね。

**西野さん** 子供たちにとって学校がそのまま社会であるかのようになっています。学校の位置付けはもっと小さくなったほうがいいし、学ぶ主体がもっと選択できるような変わる必要があると思います。義務教育ではなく、権利教育として「いつ、どこでも学んでいい」という学習権が保障され「学びたいことを学べる場所」をつくる必要があります。

——生涯学習につながりますね。  
**西野さん** 「何もしない」ということの価値を社会の中で位置付けるのはとても大変なことです。社会的評価を受けにくい領域でもあり、何かを生み出すものでもありません。でも「何もしない。無の時間を大事にする」ところから、いまの社会や教育を見つめ直したら、そこから何かが変わりはじめらるだろうと思います。

題字は高橋清・川崎市長

構成／富樫 恭子

文責／田中 圀

カメラ／山本 綾子

はりきってます グループ紹介



仲間と集って 学び 活動する 生の生かす。

感動と遊び心保つ  
好奇心盛んな熟年

ま・いい会 井野行義代表(51) と「共育ち」するグループで「感  
ら二十九人」は、子育てが一段落 動する心と遊び心を大切に」がモ  
した人や仕事人間だった人が「こ ット。第三土曜の夜、高津市民  
れからの人生を心豊かにしたい」 館などで、講習会や映画観賞、料

生き方見直し “楽集” する

ま・いい会 (高津区)

理、野外活動を企画 “楽集” して  
いる。

この日は野鳥について学ぶ。日  
本野鳥の会神奈川支部の小黒藤患  
さんが講師で「山に分け入り、珍  
しい野鳥を見るのもいいですが、  
身近にいる野鳥を観察することで  
環境や生命について考えてみまし  
よう」と話し掛ける。

「最も身近な野鳥はスズメです。  
スズメは人が住んでいる所にだけ  
いるんです。皆さんスズメの足は  
何色か知っていますか」との問い  
掛けに「茶色かな」「そう聞かれ  
るとわからないね」と首をかしげ  
る会員。「ピンクがあった肌色」  
の答えに「毎日見ているのにちつ  
とも気づかなかったわ」とうなず  
き合う女性会員たち。

小黒さんは、牛乳パックやペッ  
トボトルなどの廃品を利用して作  
ったえさ箱を会員に見せながら、  
庭先へ鳥を招き親しむ方法を紹介。  
「えさを出し忘れると窓をたたいて  
催促する鳥がいたり、巣箱にへ  
びが入っていたり、自然界のいろ  
んなドラマに出会いました」と体  
験を交えながら、鳥との触れ合い  
やその生態について話す。

質問コーナーでは「いつも同じ

鳥がえさを食べに来るのですか」  
「以前より野鳥の数は増えました  
か」「鳥は人間を見分けられるの  
ですか」「野鳥の会の人はどうや  
って鳥の数を数えるのですか」と  
次々に質問し、好奇心が盛んなこ  
とをのぞかせる。

同会の誕生は十年前。同館主催  
の「お父さんとお母さんの教育講  
座」の受講生で発足し、現在も夫  
婦会員が十組もいる。

金五子さん(51)は「ここには  
何でも語り合える仲間がいるので  
ほっとします」と笑顔。

昨年入会した田村豊さん(52)  
は「気を遣わなくて居心地がいい  
ですね」とくつろいだ表情。

岩田美栄子さんは(50)「各人  
が持ち味を生かしながら、楽しん  
でいます」と明るい。

山中信秀さん(48)は「仲間と  
学びや体験を共有するのはとても  
有意義な時間です」と話す。

井野代表は「会員の自主性にま  
かせ活動しています。夢は会員が  
いつでも使える家を持つこと」。

連絡は ☎(833) 9129 の  
同代表 (FAXなし)。

文 / 小誌・菅原純子  
カメラ / 小誌・井上徳子

はりきってます グループ紹介

男声合唱で “生涯青春” する

高津メンネルコール

高津メンネルコールは加藤忠義代表(54)の二十六人は、アカペラ(無伴奏)でハーモニーを楽しみ男声合唱団である。「男声合唱独特の重厚な歌声そのものが、優れた楽器のよう」というファンも年々増えている。仕事一筋だったサラリーマンが、「再び青春」と毎週木曜の夜、溝ノ口駅近くの高津・市民合唱団事務所で「いい音楽を醸し出そう」と集い歌う。

この日は、「コーラルフェストかわさき」で歌う男声合唱組曲「月光とピエロ」の練習。勤め帰りのネクタイ姿の団員がブリーフケースから楽譜を取り出す。

指揮・指導は洗足学園大学の石倉満郎さん。石倉さんの腕の動きに誘われるように、団員の体が自然と揺れる。道化の悲哀の歌詞がテノールの主旋律に乗る。それを包み込むようにバリトンとバスが重なり合い、重厚なハーモニーを奏でる。四人の第一テノールの発

声がかやや苦しく感じられたとき、石倉さんが「バスは音量を少し抑えて。テノールはもっとハーモニーを楽しみ感じて」とアドバイス。

ハーモニーは重厚  
仲間は軽妙で気さく

「気分転換に、みなさんのお得意のイギリス民謡『白百合』をやりたい」と石倉さん。団員から笑みがこぼれる。快活な合唱に「すごい！ピッチリ合いましたね。こんなに上手でしたっけ」とおどける石倉さん。団員が「われわれの実力を存じないようですね」とジョークで応酬。「きつと、目の前に恋人を思い抱いて歌ってい

るのでしょね」に笑いの渦。同会は一九九二年、高津・市民合唱団の男性有志が結成した。川崎市姉妹都市の「ザルツブルク市民合唱団」との合同合唱にも参加、交流も盛んだ。

鈴木彰さん(65)は「このメンバーで、最高のハーモニーを楽しめるよう指導していただいています」と笑顔。

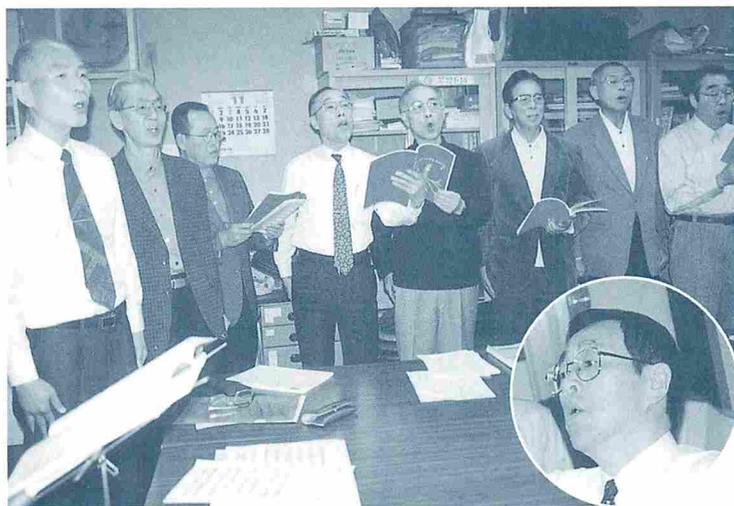
伊賀良雄さん(71)は「年齢も出身地も職業も趣味も違う市民が、いいハーモニーをつくるということだけで結ばれています」と話す。四十年ぶりに歌い自信がついたという桜井英臣さん(68)は「やってやれないことはないと思います。地域に骨をうずめる場ができました」と喜ぶ。

「おなかから声を出す腹式呼吸は、内臓を『内側から揉みほぐす』から健康にいいのでは」というのは鈴木忠能さん(59)。

飯塚宏さん(65)は「みんな元気という環境にいるから、健康と若さを保てます」と秘けつを話す。

連絡は ☎・FAX (860) 1787の鈴木彰さん。

文／小誌・井上徳子  
カメラ／小誌・菅原純子



仲間と楽しむ 学ん 活動する 生き生き

学習・文化情報

参加したい催しがある

催し



「春休みイベント①パソコン教室②アニメ映画③フラ板作り④おし花作り◆東芝科学館」①は3月30日(火)～4月2日(金)10時。パソコンで絵を描きハンカチにプリントするマ13時半からは、マウスパットにプリント。先着各20人②は3月30日(火)31日(水)10時と13時半。各250人③は4月1日(休)～5日(月)10時。先着50人④は4月1日(休)～5日(月)13時半。先着50人。料金は①500円、他は無料。対象は①小学生以上③④幼児と小学生。申し込みは②当日直接、他は事前に☎(549) 2200の同館。川崎駅からバス。「工作教室①チェロ弾きオルゴール②歩くぞう③メカロボ④ソーラーカー◆東芝科学館」①は3月26日(金)27日(土)②③④は同26日(金)29日(月)。いずれも10時と13時半(①の27日は午前の

み)。対象は①②小学3年以上③同4年以上④親子。教材費は①③千500円②千円④2千円。各回先着10人。申し込みは事前に☎(549) 2200の同館。

「川崎民俗芸能発表会◆エポックなからは」3月6日(土)10時開演。出演は丸子離子保存会マ登戸古民謡保存会マ管獅子舞保存会ほかII写真は前回。無料。問い合わせは☎(200) 3306の市教委文化財課。

「トーク・建物とくらし◆日本民家園」3月13日(土)



13時半、原家集合。民員について職員が解説。直接来園。無料(要入園料)。☎(922) 2181。

「プラザ「趣味の教室」発表会◆川崎市民プラザ」3月20日(土)21日(日)10時から書道・絵画・生け花ほかの作品展示マ21日(日)11時からコース・太極拳・エアロビクスの発表。詳細は☎(808) 3131。

「ジェンダーについて考える」教科書に描かれる女性像◆平こども文化センター」3月12日(金)10時。岸澤初美・市立看護短大講師が教科書を検証。千円。保育は300円(3歳以上)。当日直接。問い合わせは☎(865) 8056の堀内さん。母親クラブ主催。

「お年寄りや体の不自由な方のための着やすい服展◆てくのかわさぎ」3月27日(土)～29日(月)10～16時、実習室で。無料。11時から作り方の講習、13時から希望者の服をその場でリフォーム(材料費は実費)。問い合わせは☎(911) 2221の登戸ドレスメーカー学院内糸の詩(主催)。

「春の一日体験デー◆青少年創作センター」3月7日(日)10～16時。はた織り・茶道・絵手紙・料理などを体験。当日直接。無料(材料費は実費)。問い合わせは☎(911) 1510。

「市青少年フェスティバル◆とどろきアリーナ周辺」3月28日(日)10～16時。工作

時、同館入口集合。植物観察。小雨決行マ14日(日)9時、緑地東口駐車場集合。野鳥観察。雨中止マ21日(日)10時、同館入口集合。雑木林を。小雨決行。いずれも無料。持参品あり。問い合わせは☎(922) 4731。

「市青少年フェスティバル◆とどろきアリーナ周辺」3月28日(日)10～16時。工作

市外局番のないものは044

学習・文化情報

学習・文化情報

探していた講座がある

コーナー、スタンブラリー、ゲーム大会、バンド演奏、フリーマーケット他。問い合わせは☎(200) 2669の同実行委。

「川崎発 二ごみを出さない燃やさない市民プラン報告・交流会」◆エポックなからは3月20日(土)13時15分。事業者・農家・行政・市民の生ごみリサイクルの事例をもとにパネルディスカッション。無料。当日直接。問い合わせは☎(955) 2533の飯田さん。川崎・ごみを考える市民連主催。

「①教育を語るつどい」こどもの心がみえますか②映画「見えない学校」◆中原市民館」①は3月6日(土)13時半。全体会は「中原区子どもたちの生活と意識調査」

の報告。分科会は、ゆとりある学校生活マイじめ・差別マ子どもの身体と心マ家庭教育マ地域での子どもマ部活動マ不登校マ子どもの権利条例について話し合う。各20人②は3月24日(水)10時と18時。各先着460人。いずれも無料。申し込みは①受付中②3月16日(火)10時から同館で整理券配布。☎(722) 7171。

講座・講演

「NKK市民大学講座」シミュレーション技術◆市産業振興会館」3月19日(金)13時半から。テーマは地震で壊れない建物をつくるためにマごみ焼却分野の最前

「教育を語るつどい」病んでいる子ども◆多摩市民館」3月20日(土)14時。コイディネーターは「のむぎOCS」の樋口義博さん。申し込みは☎(935) 3333の多摩区地域教育会議事務局。

「たま学びのフェア」◆多摩市民館」3月5日(金)は、歴史講演会「登戸再発見」、朗読、太極拳・気功他マ6日(土)はパッチワーク、七宝焼、室内楽コンサート他マ7日(日)アニメ映画会、ダンスセラピー他。当日直接。要参加費の催しあり。詳細は☎(935) 3333。

線マ新しいモノづくりと3次元システムの活用。無料。先着80人。申し込みは、はがきに住所、氏名、☎、所属を記しテ210100855川崎区南渡田町1の1、日本鋼管テクノサービス研究支援部。☎(322) 6078。

「指定文化財現地特別公開講演会」◆盤珪永琢画像と頂相図の見方◆薬師院」4月3日(土)10時半。高津区新作の同院で岩橋春樹・鎌倉国宝館副館長が講義。受講料500円。50人(抽選)。申し込みは3月19日(金)必着で、往復はがきに住所、氏名、年齢、☎を記しテ21010004宮本町6、市教委文化財課講演会担当。☎(200) 3306。

「あさおサークル祭」◆麻

「趣味の教室」◆川崎市民プラザ」常設している教室の受講者募集。フラワーデザインマコーラスマエアロビクスマジヤズダンスマビューティヨガマレザークラフトマパッチワークマペン習字マ茶道(表千家、裏千家)マ生け花(池坊、草月

生市民館」3月27日(土)は劇「さよならパーティ」、講演「現代詩人論」他マ28日(日)はフリーマーケット、童謡コンサート他。要参加費の催しあり。当日直接。詳細は☎(951) 1300。

「高校生ワークキャンプ」◆川崎授産学園他」3月25日(土)15時～27日(土)15時の2泊3日。麻生区内の福祉施設で体験学習。参加費4千円。市内在住・在学の高校生20人(抽選)。申し込みは3月7日(日)までに往復はがきに住所、氏名、☎、学校名、学年、体験希望施設(高齢者施設か障害者施設)を記し、テ210100024日進町5の1、市社会福祉協議会。☎(244) 3563。

「きもの着付け」◆市中小企業・婦人会館」4月4日～7月18日の毎週日曜10時

流)マ和裁マ着物着付けマ時代舞踊着付けマ太極拳マ絵画(水彩、日本画)マ鎌倉彫マ自彊術マ煎茶道マ盆栽マ書道。入会金3千円、月会費各4千円。先着各30人。申し込みは☎(888) 3131の同館。

「簿記1級検定準備講座

◆市立労働会館」4月5日～7月8日の主に毎週月・木曜18時15分から、全27回。受講料約2万7千円。35人(抽選)。申し込みは4月4日(日)11時に直接。☎(222) 4416。

「簿記3級講座」◆宅地建物取引主任者資格受験準備セミナー③消費生活アドバイザー資格受験準備セミナー◆市中小企業・婦人会館」①は4月5日～7月8日の毎週月・木曜18時から、全26回。受講料は検定料込み約3万7千円、教材費約4千円②は4月8日～10月7日の毎週木曜13時半から、全25回。受講料約3万8千円、教材費約3千4百円③は4月2日～9月17日の毎週金曜13時半から、全25回。受講料約3万2千円、教材費約3万円。いずれも定員先着50人。②③は2歳以上就学前の有料保育あり。申し込みは3月15日(月)から☎(422) 2525の同館。

「きもの着付け」◆市中小企業・婦人会館」4月4日～7月18日の毎週日曜10時

「簿記1級検定準備講座

「きもの着付け」◆市中小企業・婦人会館」4月4日～7月18日の毎週日曜10時

学習・文化情報

みたい絵がある

から、全15回▽4月8日〜7月22日の毎週木曜18時半から、全15回。対象は女性。入会金約3千200円、受講料約1万7千円。定員各30人(抽選)。申し込みは3月15日(月)から☎(422)25255の同館。

「親と子の関係」問題と向き合い、自分を知り、解決の糸口を探そう◆登戸ドレスメーカー学院」3月18日(木)10時から。講師は伊藤稚子・臨床心理力ウンセラ。500円。先着30人。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

「入門手話講習会◆多摩川の里身体障害者福祉会館」4月20日〜6月29日の毎週火曜19時から、全10回。受講無料。35人(抽選)。筆記具持参。申し込みは3月31日(水)までに往復はがきに講習会名、住所、氏名、☎・FAX番号、返信部分にも住所、氏名を記して214-00012多摩区中野島6の13の5、同館。☎(935)1359。

「テスト教室」あなたの

飲み水をテストしてみませんか◆市消費者行政センター商品テスト室」3月17〜26日の毎週水・金曜10時からのおいずれかを選ぶ。残留塩素・硬度を測定。無料。各先着10人。申し込みは9時から☎(200)22263の同センター。

「かしこい消費者講座」あなたは受けられる?介護サービス◆市中小企業・婦人会館」3月25日(木)10時から。介護保険制度のしくみを服部万理子・服部メディカル研究所長が講演。無料。先着150人。申し込みは3月11日(木)9時から☎(200)2262の市消費者行政センター。

「①食品加工実習」こだわりの味噌を作る②音楽鑑賞講座Ⅱ」オルガン演奏会◆玉川大学」①は3月17日(水)10時から▽18日(木)13時半から、全2回。大豆発酵の不思議と管理を学び、味噌を作る。1万円。先着20人②は3月20日(土)14時から。時代の異なる2台のオルガンを使い、楽器と曲目の解説を交えた演奏会。一般3

千円、ペア券5千円。先着200人。申し込みは☎042(739)8895の同大学継続学習センター。玉川学園駅下車。

「性教育講座」家庭でできる性教育◆幸保健所」3月17日(水)13時30分から。講師は「性を語る会」の島沢二三子さん。対象は同区在住の思春期の子をもつ親。無料。先着30人。申し込みは☎(522)7415の同所保健担当。

「社会福祉講座◆市中部身体障害者福祉会館」3月20、27日の土曜10時から、全2回。対象は、視覚・聴覚障害者と、それにかかわるボランティアの人。無料。30人。申し込みは3月18日(木)までに☎(733)9675、FAX(733)9676の同館。

「①子育て講演会②親子ひこうき工作教室◆麻生市民館」①は3月4日(木)10時半から。「みんなどうして?赤ちゃんを卒業してからのしつけ」と題し杉本真理子・帝京大助教授が講演。参加者同士の情報交換あり。

対象は区内の子育て中の親子、関心のある人も可。無料。定員は当日直接150組②は3月14日(木)13時から。ゴム動力の軽飛行機をつくり飛ばす。対象は小学3〜6年生と保護者。無料。先着40組。申し込みは☎(951)13000の同館。

「和光大学オープン・カレッジ」同大ばいであ他」5月中旬から始まる講座の受講生募集中。アジアの諸言語▽技術とくらし▽描く・話す・創る▽歴史と芸術文化を学ぶ▽社会と人間を考えるをテーマにした約50講座。いずれも週1回百分全6〜20回。受講料は9千〜3万円。定員先着10〜30人。申し込み締め切りは4月20日(火)。問い合わせ・資料請求は☎044(988)1433の同大・大学開放係。会場は鶴川駅下車。

「パソコン研修◆市産業振興会館」初心者から経験者向けの18講座の受講者募集中。受講料1万〜4万円。問い合わせは☎(548)4119の市産業振興財団情報開発課。

ギャラリー

「ギャラリー幸」3月12日(金)〜17日(水)、近隣展▽3月26日(金)〜31日(水)、H10展。☎(555)8181。川崎駅西口下車。

「スナック喫茶琴」3月27日(土)まで、四人展。ちぎり絵を展示▽3月29日(月)から、山口昭弘の写真展「春夏秋冬」。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「会館とどろぎ」3月3日(水)〜17日(水)、市立障害児学校児童生徒作品展▽3月18日(木)〜31日(水)、教職員互助会「趣味の会写真展」。☎(733)3333。

「市民ミュージアム」3月14日(日)まで「来日450周年 大ザビエル展」その生涯と南蛮文化の遺宝。自筆書簡、南蛮屏風他。一般千円、小〜大学生500円。☎(754)4500。

「画廊ランプ屋」3月3日(水)〜31日(水)、常設展。絵画、版画ほか。月・火休廊。☎(945)4416。稲田堤駅下車。

学習・文化情報

ききたい音楽がある



ステージ

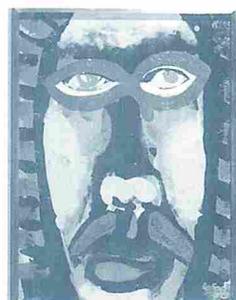
①演奏会②寄席◆東芝科学館①は3月26日(金)13時半開演。出演は御幸中学校吹奏楽団②は3月27日(土)14時開演。出演は桂南なんⅡ写真。無料。先着各250人。申し込みは事前に☎(549)2200。

「アートホール新町」3月1日(月)～15日(月)、尾崎幸子・井上泰助の絵画ほか▽3月16日(火)～4月15日(休)、瀬川裕幸の絵画▽4月7日(水)16時半、西田秀穂・東北大名誉教授が「新しいマチエール」と題し、瀬川氏の絵画や技法を解説。茶菓子代含む千円。先着30人。申し込みは事前に☎(344)6444。川崎新町駅下車。「中村正義の美術館」3

「川崎定期能く観世流川崎能楽堂」3月6日(土)。第1部は14時、野村万之丞の「謀生種」、観世恭秀の「高砂」▽第2部は16時、野村万之丞の「仏師」、高橋弘の「小袖曾我」。各3千500円。申し込みは☎(222)7695。

「さわやかファミリオンサート◆プラザ田島」3月27日(土)14時開演。出演はコールさわやかマ川崎市民交響楽団。「みんなで歌おうコーナー」に参加できる。無料。先着75人。申し込みは3月16日(火)10時から☎(663)9120。

学生300円。月・火休館。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。



3月3日(水)～4月4日(日)、中村正義・常設展。「顔」Ⅱ写真Ⅱ他50点。一般500円、



「子ども人形劇場◆麻生市民館」3月13日(土)13時半と15時半。人形劇団ひとみ座の「あまんじやくとつりこひめ」他。無料。3歳以上。各回先着200人。申し込みは3月2日(火)10時から同館で整理券配布。☎(951)1300。

「子ども人形劇場◆麻生市民館」3月13日(土)13時半と15時半。人形劇団ひとみ座の「あまんじやくとつりこひめ」他。無料。3歳以上。各回先着200人。申し込みは3月2日(火)10時から同館で整理券配布。☎(951)1300。

「ファミリーミュージカル◆人見記念講堂」3月28日(日)14時半開演。「パパの子守歌」。指定席5千円。問い合わせは☎(854)6581のサカモト・ミュージック・スクール鷺沼校。会場は東急新玉川線・三軒茶屋駅下車。

「春の短期水泳教室②スポーツ教室生徒募集◆川崎市民プラザ」①は3月26日(金)～30日(火)8時～全5回。初心者から上級者までグループ別に指導。対象は5歳～中学生。先着百人。5千円②は4月開始の水泳教室▽体操教室▽体力づくり教室。先着順。入会金5千円、月会費4、5千500円。申し込みは①受付中②3月1日(月)から同所フロントへ直

スポーツ

接。☎(888)3131。「シルバースポーツ教室」はつらつ健康体操◆幸スポーツセンター」4月15日～6月24日の毎週木曜13時半、全10回。60歳以上40人。千200円。申し込みは4月8日(水)13時半に同館で抽選。☎(555)3011。

「子育てママのリフレックスタイム◆麻生スポーツセンター」4月13日～5月18日は火曜コース、4月16日～5月14日は金曜コースで、各コース9時半、全5回。対象は96年1月～97年4月1日生まれの子供とその母親。15組。受講料は2千200円。申し込みは4月

「卓球教室」初級②HIP・HOPダンス入門◆高津スポーツセンター」①は4月20日～6月29日の毎週火曜14時、全10回。受講料4千円、教材費500円②は4月21日～6月30日の毎週水曜18時半、全10回。4千円。いずれも15歳以上40人。申し込みは①4月6日(火)14時②4月7日(水)18時半に同館で抽選。☎(813)6531。

6日(火)10時に同館で抽選。  
 ☎(951)1234。

「トレーニング室利用のご案内◆サンライフ川崎」年間を通じて火・土曜9時21時、日祝日9時17時。筋力マシン・エアロバイク・ストレッチ器具▽専門員の個別指導あり。1回200円。☎(344)1777。京急八丁駅下車。

## 会員募集

●宮崎台手話ダンスサークル《鈴木淳子代表》歌詞を手話で表現しながら、簡単なステップを踏みます。初めての方も、楽しく手話が学べます。毎月第1・3水曜10時から、宮崎こども文化センター。入会金なし、年会費千円。連絡は☎(866)1834の同代表(FAXなし)。

●麻生合唱団《上野浩代表》地域の社会人、主婦、学生と幅広いメンバーで歌っています。来年7月の定期演奏会と一緒にステージに立ちませんか。曲はベートーベン「ミサ曲 八長調」

です。練習は毎週土曜18時半から、青葉幼稚園(新百合ヶ丘駅下車)。入会金千円、月会費は一般3千円、学生2千円。連絡は☎・FAX(986)9144の同団事務局・鈴木。

●はんの木の会《永田清子代表》心とからだの緊張をほぐし、物語や戯曲を表現します。体とことばの自然な在り方を発見しませんか。例会は第2・4水曜13時から、麻生市民館ほか。入会金2千円、月会費4千円。連絡は☎・FAX(955)6812の同代表。

●新百合中国語会話《尾田常登代表》中国語と中国事情について学んでいます。4月から初級中国語の学習を始めます。初心者の方も気軽に参加して下さい。講師は元故宮博物院助理研究員の王凌・日本中国語学会会員です。学習会は、第2・4火曜18時半から、生涯学習振興事業団新百合21。入会金なし、月会費約3千円。連絡は☎(954)2245、FAX(953)8339の同代表。

## ミニニュース

書に囲まれての演奏に300人が拍手と期待

「第1回フレッシューアンサンブルかわさき in 99」が1月9日、麻生市民館大会議室であった。高津区の書道家・瀬崎竜彦さん(22)の書がステージや壁に展示されたなか、音楽大学生で麻生区在住の澤菜穂子さん(バイオリン)・丸山明文さん(チェロ)・渡辺美奈さん(ピアノ)が演奏した。

「書と楽器」のユニークな組み合わせということもあって、市の内外から子供やお年寄り、身障者、外国人など3百人を超す聴衆が鑑賞した。

メンデルスゾーン「ピアノノ三重奏曲」では、それぞれの演奏者の心からわき出る感情を一言一言に込め奏でた。何度か3人の演奏を聴いている女性は「聞きたびに奥深い音色が心に伝わってきます。将来が楽しみ」と話す(Y)。

## 編集後記

孤独と無警戒はどこから

新春号が、

2月合併号▼この間に、驚くような出来事や怖い事件がたくさんあった▼まず、

都知事の青島幸男さん(66)の不出馬表明(2/1)▼「首長の多選は、人事に よろみがでて、利権に群がる人脈ができ、政策順位がゆがめられる恐れがある」など、弊害が指摘されてきた▼その一方、「首長は4年に1回、有権者の審判をうけており、よいものは長持ちする。施策の連続性も保障されてよい」との意見もある▼とにかく、裏事情があるにせよ青島さんの不出馬に、久々に潔さを感じた▼総理のほうは政党間の思惑だけで次々に「たらい回し」▼そのけじめのなさ、志のなさに、国民は怒るよりに慣れっこになっている▼それが怖い▼怖いといえは、伝言ダイヤルで若い女性を次々と誘い出し、車内で睡眠導入剤を飲ませ、カネを奪った後、外に放置して死なせた23歳の無職男の事件がある▼誘われた女の孤独感と見知らぬ男への無警戒心は、いったいどこからくるのだろうか▼また、容疑者の青年が護送車で連行される姿をテレビでみたが、まるで観光旅行でもしているような顔▼あの表情は何なのだろう▼この50年、自分の頭で考えないで「マニュアルで楽する生き方」が身についた▼そのツケが、問題意識の希薄につながっているのか▼文章にも基本や原則はあるが、マニュアルはない▼小誌も、取材しメモを取りカメラで写し、自分の頭で考え文章を書く▼だが読者から「最近、御誌の性格があいまいになっている」との意見▼編集会議で「小誌のコンセプト(発想)、指針が分かるような資料を」▼スタッフ全員でまとめた「いまを話す」について考える」(A5判26ページ)は、仕事へのおこりをチェックするへ内部資料でもある(田)。

## 発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団  
 電話044(952)5000代

〒215-0004 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル  
 FAX 044(952)1350 編集人・田中 園